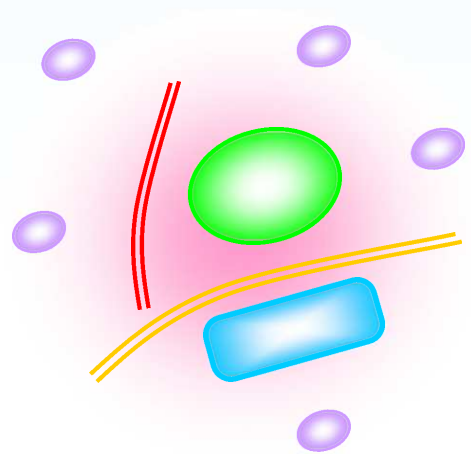


参 考 資 料

1. 策定経過
2. 検討の概要
3. 過去の取り組み
4. 駅前広場の現況



1. 策定経過

(1) 検討体制

①会議の位置づけ

構想及び施設改良計画の策定にあたっては、学識経験者、周辺自治会代表者、商工業関係者、交通事業者、関係行政機関により構成する「浜松駅周辺改良基本構想検討会議」を設置し、検討を行いました。

また、「浜松駅周辺改良基本構想検討会議」は、現存する「浜松 21 世紀都市交通会議」の分科会として位置づけました。

その理由として、「浜松 21 世紀都市交通会議」は、

- 本市における交通政策を総合的に推進するための組織
- 地域公共交通の活性化及び再生に向けて、地域公共交通総合連携計画の作成に関する協議及びその実施に係る連絡調整を行う「協議会」
- まちづくりと交通事業が一体となった交通施策及び事業の展開に資する都市・地域総合交通戦略の作成に関する協議及びその推進に係る連絡調整を行う「協議会」

であるためです。

以上により、「浜松駅周辺改良基本構想検討会議」は、「浜松 21 世紀都市交通会議」の分科会として本市全体の交通環境の向上、今回は特に浜松駅周辺の交通円滑化を図るため、駅前広場の「魅力向上、使い易さ向上」を目指す「施設改良に関する基本構想」を検討する会議としました。

②策定の体制

会議のメンバーは、「浜松 21 世紀都市交通会議」の中から駅前広場に関連する方々、加えて、「浜松 21 世紀都市交通会議」には参加していただいていないものの、日頃、駅前広場に密接に関わる方々に参画いただき、改良基本構想及び施設改良計画へのご意見やご指導を受けました。

浜松 21 世紀都市交通会議

【機能】 ・総合的な交通計画に関する協議 ・交通計画の進捗管理 等

【会員】 学識経験者、市民、産業・経済・観光、交通事業者、国土交通省、交通管理者、浜松市

分科会：浜松駅周辺改良基本構想検討会議

○浜松駅周辺の交通円滑化に関する検討を行った上で、駅前広場の「魅力向上、使い易さ向上」を目指す「施設改良に関する基本構想」を策定する。

- ・会員 = 学識経験者
浜松市自治会連合会 中区内の中央地区、東地区、駅南地区の代表者
浜松商工会議所
浜松商店界連盟
交通事業者 遠州鉄道株式会社
浜松駅構内タクシー組合
交通管理者 静岡県浜松中央警察署
浜松市
- ・オブザーバー = 東海旅客鉄道株式会社
国土交通省

■ 浜松駅周辺改良基本構想検討会議 委員名簿

No.	所 属	役職
1	埼玉大学大学院	教授
2	静岡文化芸術大学	教授
3	旭町自治会	会長
4	板屋町自治会	会長
5	砂山町第三自治会	会長
6	浜松商工会議所 地域総合開発委員会	委員長
7	浜松商店界連盟	会長
8	遠州鉄道株式会社	部長
9	浜松駅構内タクシー組合	組合長
10	浜松中央警察署	交通官
11	浜松市都市整備部	部長
12	浜松市土木部	部長

オブザーバー	東海旅客鉄道株式会社 静岡支社
オブザーバー	国土交通省 都市局 街路交通施設課
オブザーバー	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課

(2) 会議の開催状況

検討会議を3回開催しました。

その後、浜松21世紀都市交通会議へ検討内容を報告し、承認を得ました。

また、検討会議の開催にあたり、浜松市役所内の関係課により組織した庁内幹事会を開催し、検討内容を調整しました。

① 浜松駅周辺改良基本構想検討会議

回数	開催日	テーマ	概要
第1回	平成23年9月22日	<ul style="list-style-type: none"> 検討会議及び検討の概要 駅前広場の現況確認 市民意見収集、交通量調査の実施概要 	<p>検討会議を設置し、会議の概要と策定手順、駅前広場の整備経緯と現況等を確認した。</p> <p>「将来の整備方針(案)」を確認した。</p>
第2回	平成24年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> 構想の検討 改良方法の検討 市民意見の収集、交通量調査の結果 	<p>「将来の整備方針(案)」に基づく構想(案)を確認した。</p> <p>構想に基づく改良方法(素案)を確認した。</p>

第3回	平成24年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想の検討 ・ 改良方法の検討 	<p>構想実現へのロードマップを確認し、構想（案）をまとめた。</p> <p>施設改良の手順を確認し、施設改良計画（素案）をまとめた。</p>
-----	------------	--	---

②浜松21世紀都市交通会議

回数	開催日	テーマ	概要
第27回	平成23年11月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会議及び検討の概要 ・ 駅前広場の現況確認 ・ 市民意見収集、交通量調査の実施概要 	<p>分科会の概要、策定手順、駅前広場の整備経緯と現況等を確認した。</p> <p>「将来の整備方針（案）」を確認した。</p>
第28回	平成24年3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想の検討 ・ 改良方法の検討 	<p>構想実現へのロードマップを確認し、構想を承認した。</p> <p>施設改良の手順を確認し、施設改良計画を承認した。</p>

③庁内幹事会

回数	開催日	テーマ	概要
第1回	平成23年9月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会議の設置 ・ 構想の検討 	<p>検討会議を設置し、会議の概要と策定手順、駅前広場の整備経緯と現況を確認した。</p> <p>「将来の整備方針（案）」を確認した。</p>
第2回	平成23年12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想の検討 ・ 改良方法の検討 	<p>「将来の整備方針（案）」に基づく構想（案）を確認した。</p> <p>構想に基づく改良方法（素案）を確認した。</p>

2. 検討の概要

(1) 策定の手順

検討会議では、以下のとおり検討を進め、構想（案）、施設改良計画（素案）をまとめました。

また、検討に際しては、市民意見や交通量等を把握するための「市民アンケート」、「交通量調査」、「地下駐車場利用実態調査」を実施しました。

策定フローとスケジュールは、次ページに示すとおりです。

●第1回

- 整備方針の整理、現況整理、課題整理、新たな整備方針（案）の提示
- 第1回市民アンケート及び交通量等調査の実施計画についての協議

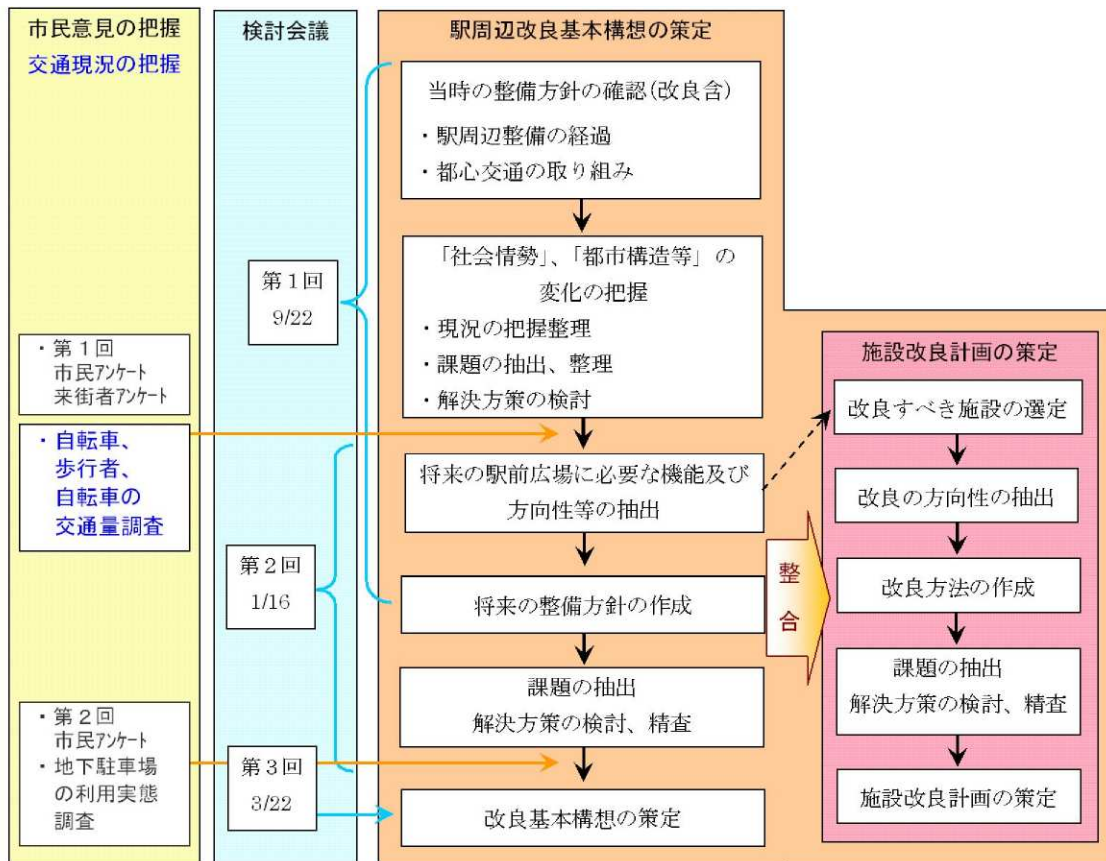
●第2回

- 市民意見及び交通量を基にした「新たな整備方針（案）」の協議
- 「施設改良計画（素案）」についての協議
- 第2回市民アンケート及び地下駐車場利用実態調査の実施計画についての協議

●第3回

- 「駅周辺改良基本構想（案）」の策定、「施設改良計画（素案）」のまとめ

(2) 策定フロー



参考資料

(3) スケジュール

項目	年・月 / 2011年度											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
■改良基本構想の策定	当時の整備方針の確認(改良含) 社会情勢、都市構造の変化整理			将来の整備方針の提示 整備方針を実施していく上での課題の抽出、解決方法の検討						改良基本構想の策定		
■施設改良計画の策定	改良すべき施設の選定			改良の方向性の決定 改良方法の提示 課題の抽出						施設改良計画の策定		
■市民アンケート	第1回市民アンケート 準備			実施			集計			第2回市民アンケート 準備		
■来街者調査				準備			実施			集計		
■地下駐車場利用実態調査				準備			10/14・16 11/25・27			集計		
■自動車交通量調査				準備			実施			集計		
■歩行者・自転車交通量調査				準備			10/14・16 11/25・27			集計		
■検討会議の開催	組織化											
■浜松21世紀都市交通会議	○ 報告											
	○ 承認											

3. 過去の取り組み

(1) 都心の創造に関する取り組み

年度	取り組み
昭和 22 年度	戦災復興土地地区画整理事業の決定
昭和 39 年度	東海道新幹線の開通、南口駅前広場の完成
昭和 45 年度	浜松駅周辺土地地区画整理事業の決定
昭和 46 年度	東海道本線高架、遠州鉄道線高架の決定
昭和 48 年度	東海道本線高架の着手
昭和 54 年度	東海道本線高架の完成
昭和 55 年度	北口駅前広場の着手
昭和 55 年度	遠州鉄道線高架の着手
昭和 58 年度	北口駅前広場の完成
昭和 60 年度	遠州鉄道線高架の完成、新川モールの完成
昭和 62 年度	浜松駅周辺土地地区画整理事業の完工、東第一土地地区画整理事業の決定 アクアモールの完成、イトーヨーカ堂の開店
昭和 63 年度	浜松名鉄ホテル・メイワン・遠鉄百貨店の開店、ギャラリーモールの完成
平成 2 年度	サンクンガーデンの完成、フォルテ・浜松 C ビルの開店
平成 3 年度	東第二土地地区画整理事業の決定
平成 4 年度	松菱新館の開店
平成 5 年度	駅南地下駐車場の完成、南口駅前広場の改修、浜松 A ビルの開店
平成 6 年度	アクトシティの完成
平成 11 年度	松菱 B 2 ビルの開店
平成 12 年度	ザザシティ浜松中央西館の開店
平成 13 年度	北口駅前広場改修の着手、ザザシティ浜松中央館の開店
平成 15 年度	北口駅前広場改修の完成、南口駅前広場の改修
平成 18 年度	旭板屋 B 地区(D's Tower)の完成、遠州総合病院の完成
平成 22 年度	旭板屋 C 地区(シティタワー浜松)の完成

(2) 都心交通に関する取り組み

年度	取り組み
昭和 56 年度	中心市街地交通規制の検討調査
昭和 58 年度	中心市街地交通管理計画推進懇談会の設置
昭和 60 年度	中心市街地交通管理計画（ゾーンシステム）の策定、 新川モールの完成
昭和 62 年度	アクアモールの完成、田町中央通りの改修
昭和 63 年度	ギャラリーモールの完成
平成元年度	第一通りの改修
平成 2 年度	サンクンガーデンの完成、モール街の改修
平成 3 年度	中央柳通り・千歳通りの改修
平成 4 年度	千歳中央通りの改修
平成 5 年度	アルコモール有楽街・千歳南通り・まがたま小路の改修
平成 6 年度	池町通り・しにせ通り大安寺の改修
平成 8 年度	肴町通りの改修
平成 10 年度	飯田鴨江線の改修、トランジットモール試行実験
平成 12、13 年度	鍛冶町通りを考えるオープンサロンの開催
平成 13 年度	モール街の改修、鍛冶平田線の整備、ゆりの木通りの改修
平成 13、14 年度	鍛冶町通りワークショップの開催
平成 15 年度	有楽街南通り・有楽街中通り・参之式小路の改修
平成 16 年度	中心市街地の交通を考えるワークショップの開催 都心交通整備方針の市長への提言
平成 17 年度	新川モール・有楽街北通りの改修
平成 18、19 年度	鍛冶町通りの再整備（歩道拡幅、平面横断化）
平成 19 年度	有楽街仲通りの改修
平成 22 年度	総合交通計画(2010-2030)の策定、鍛冶町通りのスクランブル横断化
平成 23 年度	浜松駅周辺改良基本構想の策定

(3) 主な取り組みの概要

①ゾーンシステム（昭和 60 年度）

ゾーンシステムとは、都心にアクセスする自動車交通を受け、分散させる機能を持つ「環状の外周道路」を位置づけ、この道路の内側は、「通過のみの自動車交通を抑制」し、「歩行者優先のモールや空間」を配置することにより、安全で安心な歩行環境を実現する手法です。併せて、外周道路沿線への駐車場の分散配置（フリンジパーキング）や公共交通利用の促進策を実施し、システムの効果を高めていくものです。



本市では、道路整備といった「ハード施策」による交通流の整序に加え、自動車から公共交通への転換、歩行者の回遊性や安全性の向上といった「ソフト」施策を併せて実施するゾーンシステムを取り入れた「浜松市中心市街地交通管理計画」を策定し、システムの実現に向けて、主要幹線道路及びモールやコミュニティ道路等細街路の整備を順次進め、平成 10 年度頃には大部分の道路整備が完了していました。

②トランジットモール試行実験（平成 10 年度）

本市のゾーンシステムは、システムの中央に位置する鍛冶町通りの歩行空間の中を公共交通が走る「トランジットモール」を提唱していました。

このトランジットモールにより、現在の「通過交通主体」の鍛冶町通りを「歩行者主体」へ転換し、通りの南側と北側の歩行者の回遊性を向上させることを目的としていました。さらには、都心全体にわたり歩行者の回遊性を広めていくことも目指していました。

このような目的を掲げる中、道路整備が進む平成 8 年度頃には、鍛冶町通り沿道の市街地再開発事業及び鍛冶町通り改修の着手が目前にあり、残る鍛冶町通りのトランジットモールの採用について判断を要する時期が迫っていました。



このため、トランジットモールの効果を把握することを目的として、2 週間の試行実験を行いました。

しかしながら、実験の目的や経緯等を十分に説明出来ず、実施の賛同を広く得られなかったことや天候不順等も重なり、実験中は都心へのアクセス道路に渋滞が発生するなど、交通環境への影響が現れました。また、実験中及び実験後において、「歩行空間が広がった」、「渋滞が発生した」等多数の賛否両論の意見をいただきました。

以上のことから、市としては、トランジットモールの本格実施について改めて検証することとしました。

③市民との意見交換、市民意見の集約、都心交通計画の見直し（平成 12～14 年度）

トランジットモールの実験により多数の意見をいただいたことのアフターアップとして、「オープンサロン」、「ワークショップ」、「アンケート」を実施し、実験後の市民意見の収集を行いました。

これらにより収集した多くの市民意見は、

- ・クルマを迎え入れ「人とクルマの共存」を図る。
- ・回遊性を高める道路空間を創出する。
- ・憩える道路空間を創出する。

などの方向性に集約しました。

これらの意見集約により、都心交通に関する考え方を市民と共有し、都心交通に必要な機能空間等についての「将来の浜松都心交通の整備方針」をまとめました。



④鍛冶町通りの再整備（平成 18、19 年度）

「将来の浜松都心交通の整備方針」の中で、鍛冶町通りには

- ・さまざまな交通手段で鍛冶町通りにアクセスしやすくすること
- ・鍛冶町通りを回遊、滞在しやすくすること

の2つのコンセプトを位置づけ、これに基づいて「短期整備」、「中・長期整備」の段階的な整備案を示しました。

この内、「短期整備」は、

- ・歩道を拡幅（車線数を削減）し、歩行空間を拡大する
- ・歩道沿いの車線をバスレーンとする

とし、6車線の「通過交通型道路」から「歩行者と公共交通を優先したアクセス型道路」に大きく姿を変える案でした。また、歩行者優先の道路へと機能更新する中で、横断地下道を廃止し、歩行者の平面横断化を位置づけました。これらの案は、まさにトランジットモールが目的としていた「歩行者主体」、「回遊性向上」と整合する案であり、形を変えて所期の目的を達成することとしました。



この案を基に関係者協議を進め、鍛冶町通りに広い歩行者空間とバス優先空間を創出しました。そして、平成 22 年度には、「中・長期整備」の案に位置づけていたスクランブル横断化を行い、歩行者と自動車を分離させて交通安全の向上を図りました。

⑤政令市移行に併せた総合交通計画の策定（平成 22 年度）

政令市への移行や交通の問題に対応するため、市全域を対象として「総合的な観点から各交通手段を一体的に捉え、『目指す将来の交通の姿』を実現するための長期にわたる『交通の展望』となる浜松市総合交通計画(2010・2030)」を平成 22 年度に策定しました。

この中で、「都心交通の基本方針とその方向性」を示し、今後もゾーンシステムの考え方を継承する中で、「歩行者優先エリア」の創出、維持を継続することとしました。

⑥浜松駅周辺改良基本構想の策定に向けて（平成 23 年度）

これまでの都心における都市基盤整備事業及び都心交通の取り組みが目指した「都心機能の向上」を継続していくため、都心の中心に位置する浜松駅の駅前広場及び周辺施設について「都心空間の改善」を目的とする改良基本構想を策定しました。